

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣南高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月5日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 大垣南高等学校会議室
- 4 参加者
会長 竹内 治彦 元岐阜協立大学学長
委員 五十川智宣 大垣ケーブルテレビ取締役、同窓会副会長
今村あおい (株)新生メディカル取締役社長(欠席)
川瀬 尚志 大垣南高等学校育友会会長(欠席)
小林 月子 サンブレッジ国際医療福祉専門学校校長、元岐阜大学教育学部教授
小山亜希子 (社福) 楽山・杜の会理事
酒井 吾郎 洲本連合自治会長(欠席)
竹中 拓也 太平洋工業株式会社人事部主査(欠席)
藤田万喜子 岐阜聖徳学園大学教育学部教授
三輪 賢司 岐阜県公民館連合会会長、元岐阜県小学校校長
オブザーバー 伊藤 秀光 岐阜県議会議員(欠席)
学校側 川瀬 英樹 校長
滝 一男 教頭
古山 晴美 事務長
今枝 誠 教務課長
西脇 一徳 生徒指導課長
折山 真生 進路指導課長

5 会議の概要

本年度の反省(重点目標・具体的取組・成果課題)について

(1) 学校運営及び学習指導について

意見1: 新型コロナウイルス感染症による行動制限が明けて平常の学校運営に戻った感がある。

意見2: 新しい取組や個別指導の増加等で学校運営の全体を通して教職員の仕事が大変そうな印象がある。働き方改革をできるところは進めていってほしい。

意見3: AIやICTの活用により仕事の効率化を図り、人間でないとできない部分に注力して働き方を改善していけるとよい。

意見4: 学習指導でのICT活用において、個々の生徒の実態に応じてAIが難易度の異なる出題を各生徒に提供することは良いが、知識偏重に陥らずに思考力を養う出題になるよう配慮が必要である。

意見5: 本校における学習指導は新しい学力観よりは旧来の概念に基づく運営だが、本校の役割としてはこれで良い。新しい学力の概念は変化の激しい時代に自分で考えて問題を解決していく力を身に付けることだが、その力を付けるには基礎学力が必要である。本高の生徒は標準的な基礎学力は身に付けているという保証をつくっていくことは地域にとって大切である。

意見6: 本校の生徒で習熟度の差が広がっていることについて、その原因は入学者選抜が機能していないのか入学後の指導によるものなのかを考えることは重要である。

⇒昨年度に入学者が定員を割り込んだが、それが習熟度の差の広がりの一因かもしれない。本校としては、入学した生徒を習熟度の差に配慮していかに育てるかに注力していきたい。

意見7: どのようにして自主的に学習する姿勢を養うとよいと考えるか。

⇒卒業時から逆算して、今何をすべきなのかイメージができるような話題を各学年の様々な場面で提供する。卒業後に向けて生徒がやる気を保ち続けることができる指導をする。

意見8: 基礎学力の定着のための補充を夏季と冬季に行っているが、その成果はあるか。

⇒定期考査に向けての取組を中心に生徒の意欲は増していた。

(2) 生徒指導について

意見1：スマホ依存の生徒に対して、学校生活に集中できない状況が心配である。生徒と家族が一緒になって医療と連携して依存症を克服する方法を考えなければならない。

⇒これまでのスマホ依存度の高い生徒への対応として、学校にいる時間帯にフィルタリング設定をした家庭があった。また、生徒本人の希望により登校したら学校がスマホを預かるようにした生徒もいた。今後も各生徒に応じた対応を考えていく。

意見2：高校生は精神的な病気を発症しやすい年代である。スクールカウンセラーには希望する生徒のカウンセリングだけではなく、教職員も相談して専門的なアドバイスをもらおうとよい。

意見3：安全に安心して学校生活を送れるよう、きめ細かに日々の指導がなされて成果が認められる。

意見4：暑さ寒さ対策としての制服以外の着用を認めている点は良い。自然にルール等を守ることができる生徒を育成してほしい。

(3) 進路指導について

意見1：早い段階から進路情報を提供することは生徒が進路を考える上で大事である。習熟度の低い生徒の心をつかみ学習習慣が身に付く情報が提供できるとよい。

意見2：外部の人を招いたりインターンシップへの参加することで生徒は将来の働くイメージを持ちやすくなるので、引き続きそのような企画をしてほしい。

意見3：大学等へ皆が行くから自分も行くのではなく、行った先で何をやるかが重要である。進学することが目的ではなく、そこで何を学び、どのように社会に貢献したいかというビジョンが大切であり、やらされている勉強では身に付かない。生徒に意欲を芽生えさせることが大切である。

意見4：総合的な探究の時間における活動について、教科書にも記載されておらず答えがない課題に対して、地域の方も含めて共に取り組んでいく時間は大切である。

意見5：総合的な探究の時間において探究するテーマは生徒の希望することが選べるのか

⇒1年次ではどのようなことをやりたいか話し合わせてから探究学習に入った。2年次では10程度のテーマの中から選ぶ形をとった。多くの外部講師を招けるとよいが難しい。課題が多いが発展途上である。

6 会議のまとめ

- ・新型コロナウイルス感染症への対策緩和に伴い、行動抑制前と比べて学校運営が大きく変化するかと思われたが、本校らしい部分はそのまま残っている印象である。今後は職員の働き方にも考慮しつつ改善を試み、本校の良いところを伸ばしていきたい。